

(8) 一般機械工業

14 / 13 15 / 14 伸び率 10%以上 ? 伸び率 0 ~ 10%
: 天気図マーク; 伸び率 0 ~ 10% 伸び率 10%以下

. 建設土木機械

1 . 企業経営動向 (需要、生産・設備稼働、企業収益、財務)

(1) 需要

現状及びその要因

平成 1 4 年度の出荷額 (出典 : (社) 日本建設機械工業会統計) は 1 兆 1 , 7 3 5 億円、対前年度比 2 . 9 % 増と 6 年振りに増加に転じた。内需については、公共工事の低迷などにより減少し、 6 , 1 0 2 億円、対前年度比 1 3 . 6 % 減と 6 年連続前年割れとなった。一方、外需については、中国向けを中心としてすべての地域において好調で、 5 , 6 3 4 億円、対前年度比 2 9 . 8 % 増と 2 年連続の増加となった。

今後の見通し

(社) 日本建設機械工業会によると、平成 1 5 年度出荷額 (補給部品を含まず) を対前年度比 8 % 増と 2 年連続前年度増加する見込んでいる。内・外需別には以下のとおり。

内需 : 上期は公共工事、住宅投資、民間設備投資の減少により対前年同期比 2 % 減と予測している。下期は底打ちし、対前年同期比横這いになると予測している。年度合計では対前年同期比 1 % 減となり、対前年同期比はほぼ横這いになると見込んでいる。

外需 : 上期は油圧ショベルを中心に、中国向けが堅調に推移することが予測されることから 1 7 % 増と予測している。下期も引き続き中国向けが好調に推移し、対前年同期比 1 6 % 増と予測している。年度合計では対前年同期比 1 7 % 増と 3 年連続の増加を見込んでいる。

(2) 生産・在庫

平成 1 4 年度 of 生産額 (出典 : 経済産業省生産動態統計) は、 8、7 0 5 億円と対前年度比 4 . 8 % の増加となった。

在庫 (出典 : 経済産業省生産動態統計) は、減少傾向にある。

(3) 企業収益

平成 1 4 年度は、公共投資の大幅な縮減や住宅の減少により、国内市場が低迷した。一方で中国を中心として輸出が大幅に伸びたため、各社とも軒並み前期の実績を上回り、大手 5 社で見ると、全ての企業が増収となり概ね堅調に推移した。

2．設備投資動向（14年度見込み、15年度計画）

(1)平成14年度実績見込み

平成14年度は、調査企業8社合計で126億円となった。これは192億円であった平成13年度に比べ34.7%減である。

目的別では、合理化投資（46%）、維持投資（31%）のウェイトが高く、研究投資（1%）は低調であった。

(2)平成15年度計画

平成15年度計画は、調査企業7社合計で181億円と計画されている。これは123億円であった平成14年度に比べ46.3%増である。

目的別では、合理化投資、維持投資を中心とした構成には大きな変化が見られない。

3．長期資金調達・運用動向（長期資金運用動向、長期資金調達動向）

(1)長期資金運用動向

平成14年度は平成13年度に比べ、設備投資資金が約10%減少したものの、投融資額は増加した。一方、短期資金への振り替えは増加した。

平成15年度計画は平成14年度に比べ、設備投資資金が増加予定であるものの、投融資額は減少し、短期資金の返済が進む計画になっている。

(2)長期資金調達動向

平成14年度は、借入金及び社債、内部資金による資金調達が増加した。

平成15年度計画では、借入金、社債は平成14年度と比して大幅に減少し、内部調達による調達も減少する計画となっている。